

# 【家庭科】

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

○調理や裁縫に意欲的に取り組む児童が多く、実習を通して基本的知識や技能を身に付けることができた。  
 △裁縫実習では、一斉説明だけでは理解できず実習中に困り感をもつ児童が多く、教員の支援が届かないことで、基礎的な技能の定着に差が出てしまった。そのため、困り感のある児童への対応の工夫や指導者を増やすなどし、技能の定着を図る必要がある。  
 △裁縫や調理以外の衣食住の学習において、主体的に学ぶ意欲に欠ける様子も見られるため、教科書の例のみで学ぶのではなく、自らの家庭生活での経験を振り返り、自分自身や友達的生活を基にした事例を通して、生活改善について考え、話し合いながら学べるようにする必要がある。

## 2 学習状況の分析と課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について学んだ事柄は知識としては定着している。 一方、家庭での生活様式の違いや体験の有無により、生活技能の差は大きい。全く未経験の児童や始めから目的意識の薄い児童は、裁縫・調理共に基本的な道具の使い方の習得に時間がかかる。 第5学年：裁縫の玉止め・玉結びなど、裁縫の基本的な技能の習得に時間がかかる。調理では、基礎知識は定着しているものの、技能は十分ではない児童もいる。 第6学年：5年時に経験のある技能は再度学習することで定着している。しかし、それを自分で活用する力には個人差がある。	多くの児童は、便利なものに囲まれ、家族に家事等を任せられることに慣れてしまっている生活環境にあり、経験が少ないため、自分の家庭生活に結び付けてよりよい生活を工夫する必要性を感じている児童は少ない。	調理・裁縫実習共に、グループやペアで協力しながら主体的に取り組むことができている。しかし、裁縫については、技能面での差が大きく、意欲があっても友達や教員の支援がなければ、実習が思うように進められない児童もいる。 自分の生活や衣食住に関しては、よりよくするための知識は習得できても、実生活に落とし込んで課題を解決したり実践したりしようとする意欲には個人差がある。実践をする機会があっても、継続的に行うことができず、その場限りの体験になっている児童が多い。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活を振り返りながら、よりよい衣食住について自分の生活と関連付けながら考えようという関心を高めること。</li> <li>支援を必要とする児童への対応を工夫し、より多くの児童が技能を身に付け、主体的に実習に取り組めるようにすること。</li> </ul>		

## 3 授業の具体的な改善策

教科目標	<b>学習指導要領の教科の目標</b> 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
全体	教科書の例のみで学ぶだけでなく、家庭にも協力を仰いで、実際に自分自身や友達的生活を基にした事例を通して生活改善について考え、話し合いながら学べるようにすることで、より主体的で深い学びになるように工夫する。
<b>学年段階別改善策</b>	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の家庭生活を振り返って生活課題を見つけ、その解決や改善に対し、具体的に主体的に取り組もうとする意欲をもてるよう、単元の導入や授業の流れを自らの生活との関連性を重視して工夫する。</li> <li>基本的な技能を確実に定着させ、家庭科に対する苦手意識をなくせるように、裁縫や調理などの活動の時間を十分に確保し、丁寧に取り組ませることで、基礎的な技能の定着を図る。実習中での出来事や反省を具体的に振り返り、家庭や次の実践で生かせるようにする。</li> <li>実習では、グループやペアで協力しながら取り組ませることで、協働的に学ぶ工夫をし、主体的に課題に取り組み、協力して課題を解決する力を高められるようにする。</li> <li>清水窪応援隊や保護者への協力を仰いで調理実習や裁縫実習で、困り感のある児童にきめ細やかな支援ができるようにする。</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度中学生になることや、大人に近づいていることを意識させ、自立への道筋という視点をもたせることで、主体的に自らの生活を改善していこうという意識を高めさせる。</li> <li>実習では、グループやペアで協力しながら取り組ませることで、協働的に学ぶ工夫をし、主体的に課題に取り組み、協力して課題を解決する力を高められるようにする。</li> <li>自分の家庭生活と結び付けて学習に取り組み、学習したことを家庭生活のどのような場面で生かそうか考え実践することで、技能や知識の定着を図るとともに、生活改善への意欲・実践力が高まるようにする。</li> <li>清水窪応援隊や保護者への協力で、調理実習や裁縫実習で、困り感のある児童にきめ細やかな支援ができるようにする。</li> </ul>